

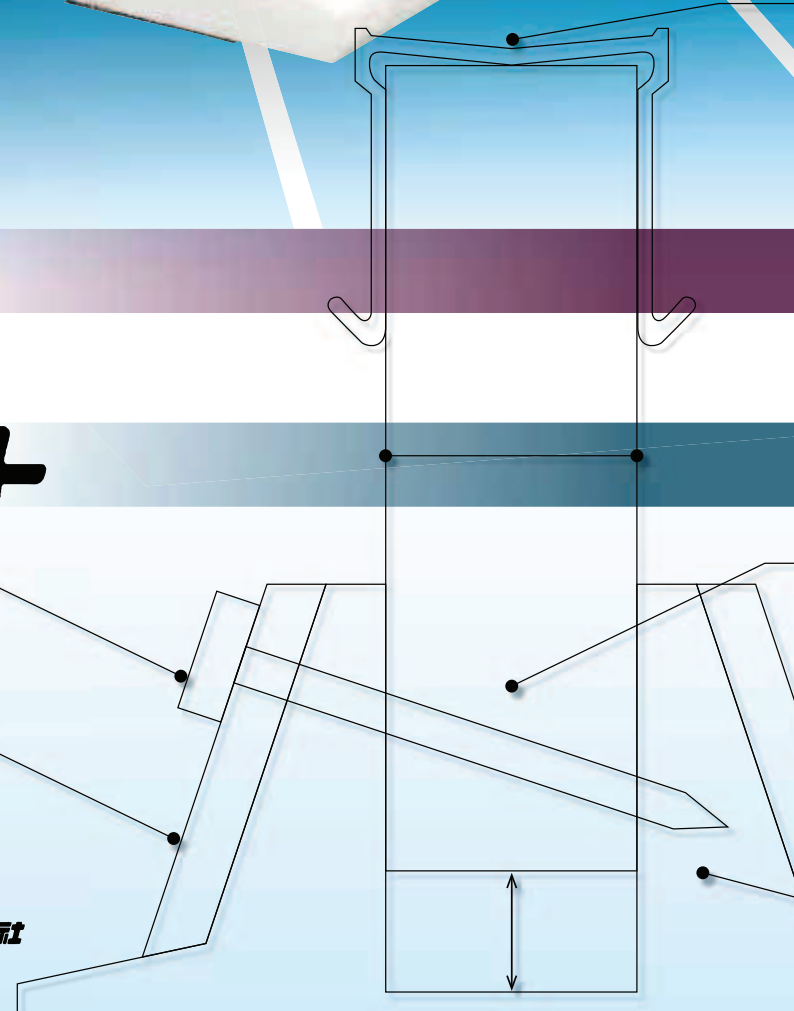
乾式成形伸縮目地材

**メジマック**

湿式成形伸縮目地材

**ドラ-999**

 **ドラ-999**工業株式会社



# すべてはお客様のため、ていねいに。

成形伸縮目地材は、大きな建物からみると、小さな一部分にすぎません。でもその小さな一部分に、大切な建物をいつまでも美しく長持ちさせる大きな役割があるのです。

お客様からいただいた多くのご意見・お言葉を糧（かて）にこれからもドラフタイトはていねいな仕事で、高品質・高付加価値の製品を提供してまいります。



メジタック ZU 青竹-25d・ZU 黒松-25d及び、  
ドラフタイト 青竹-25d・黒松-25d・竹-25・松-25は、  
一般社団法人公共建築協会評価品に認定されました。



排水溝型枠材

# ピットフォーム

排水溝型枠材「ピットフォーム」は、防水層を傷める事なく排水溝の型枠工事が可能です。また、硬質ウレタンフォームにアルミ面材が貼られた型枠材は、剥離性がよく美しい仕上面が得られます。



◆ピットフォーム 部材一覧(溝幅W300 高さH140の場合)

製品名	規格
ピットフォーム AL20 ※1	W20×H140 ※2 L1500
バリ材 (幅止め材)	W20×H140 ※2 L260 ※3
プセルテープ	W20×15m t1.0 W10×15m t1.0 (面木用)
布ガムテープ	W50×25m
ウレタンフォーム(現場発泡)	750ml (溝長さ約 10m / 缶) ノズル 2 本付

材質:アルミ箔付硬質ウレタンフォーム(型枠用ボード)  
 ※1:H180を超える場合は、ピットフォームALの幅Vは25mmとなります。  
 ※2:コンクリート厚が高い場合は、任意の寸法をご指定ください。  
 ※3:排水溝幅が300mmの時の寸法です。L寸法は排水溝幅-40mmです。

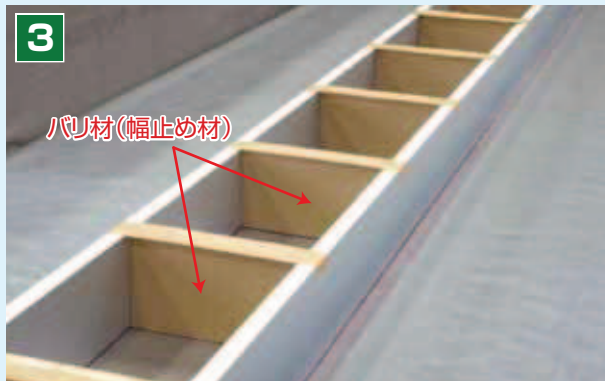
## 施工手順



排水溝幅(W)の墨出し後、墨に合わせてプセルテープ(W20)を貼ります。



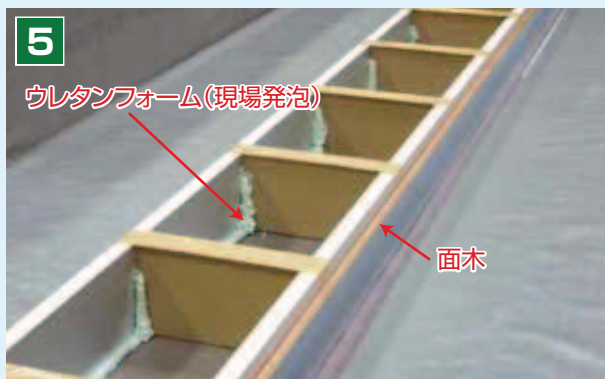
プセルテープの離型紙をはがし、ピットフォームAL20を圧着します。



バリ材(幅止め材)を@375ピッチ以下で取り付け、布ガムテープで固定します。



内側にウレタンフォーム(現場発泡)を吹付け、ピットフォームAL20とバリ材(幅止め材)を固定します。



保護コンクリートレベルに合わせて、面木(別途)をプセルテープ(W10)でピットフォームAL20に貼り付けて設置終了です。



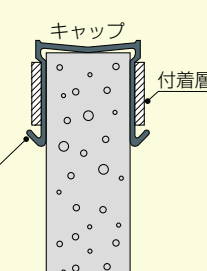
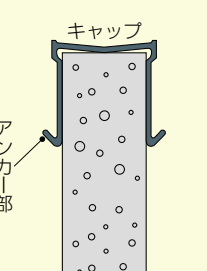
保護コンクリート打設後、ピットフォームを解体し、溝底の勾配をモルタルで仕上げて完了です。

# 成形伸縮目地材の区分

成形伸縮目地工業規格の抜粋

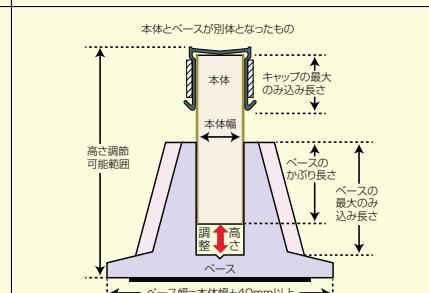
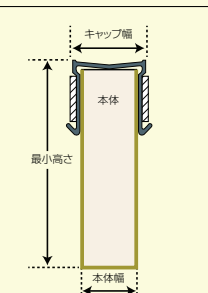
## ●形状による区分

「形状による区分」は、付着層およびアンカー部の有無により、1類・2類の2種類に分類されます。

区 分	1類 (付着タイプ)	2類 (アンカータイプ)
種 類		
形 状 例	保護コンクリートに対する「付着層を備えたキャップ」、または「付着層とアンカー効果を備えたキャップ」と「本体」を組み合わせ、所定の品質を有する目地材。	保護コンクリートに対する「アンカー効果を備えたキャップ」と「本体」を組み合わせ、所定の品質を有する目地材。

## ●用途による区分

「用途による区分」は、高さ可変範囲とベースの有無によって区分されます。高さ可変型の製品は、目地材両側の保護コンクリート相互の縁切が完全になるものとされています。  
 ※高さ可変型のベース幅の規定を行ったのは、目地材両側の保護コンクリート相互の確実な縁切と、施工時の安定化を目的とした。

区 分	高さ可変型	高さ固定型
高さ可変範囲	20mm 以上	20mm 未満
形 状 例		

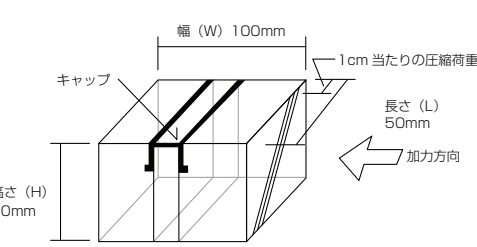
## ●高さ可変範囲の計算式

種 類	高さ可変範囲の計算式
本体とベースが一体となったもの	$a = b - c$
本体とベースが別体となったもの	$a = (b - c) + (d - e)$

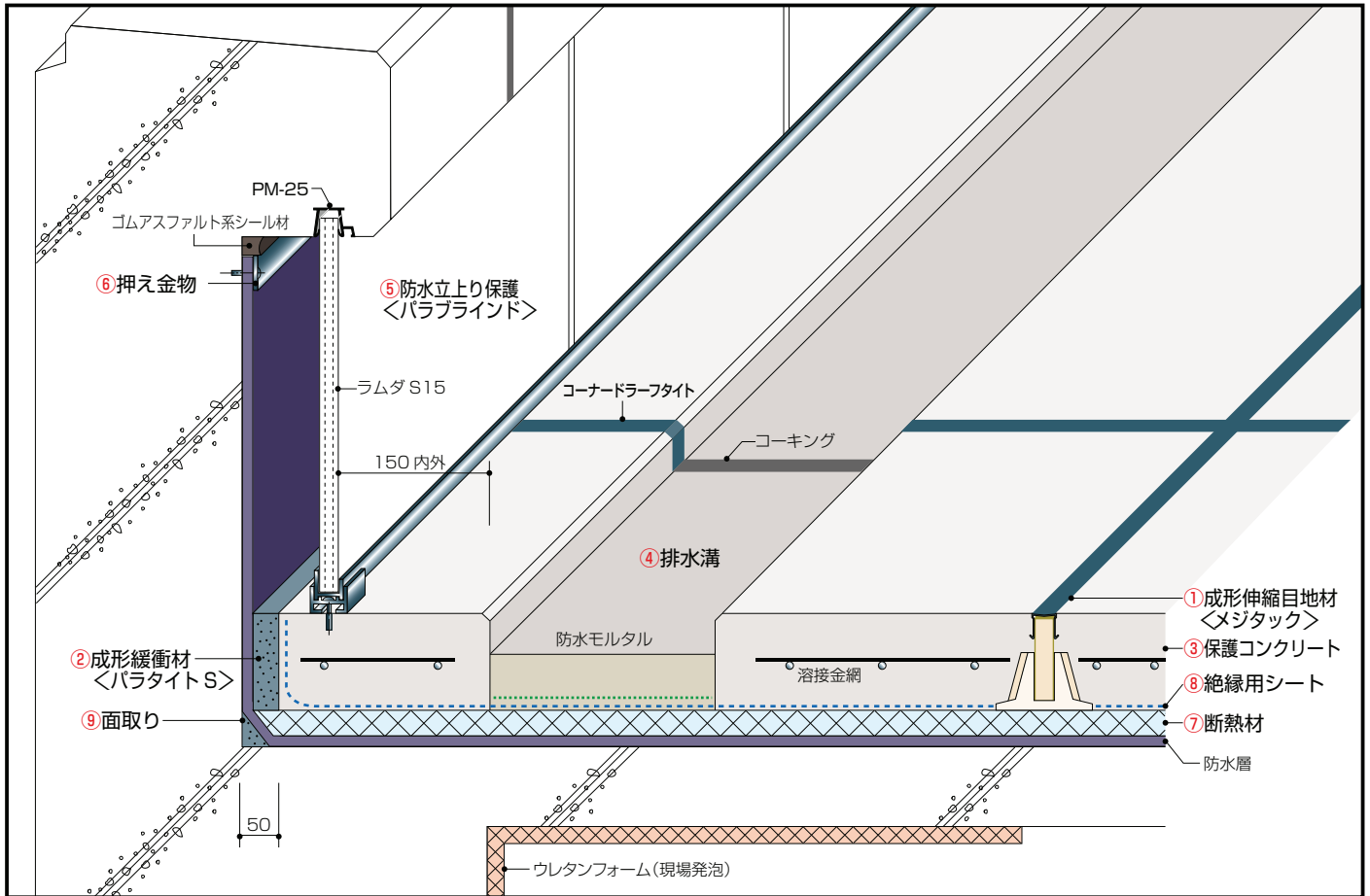
a : 高さ可変範囲  
 b : キャップの最大のみ込み長さ  
 c : 15mm (最低限度必要なキャップのかぶり長さ)  
 d : ベースの最大のみ込み長さ  
 e : 10mm (最低限度必要なベースのかぶり長さ)

# 一般社団法人公共建築協会 評価基準

項 目	品 質 ・ 性 能	
区 分	形状による区分	付着層タイプ 保護コンクリートに対する付着層を備えたキャップと本体を組み合わせ、所定の品質を有する目地材。
		アンカータイプ 保護コンクリートに対するアンカー効果を備えたキャップと本体を組み合わせ、所定の品質を有する目地材。
用途による区分	高さ可変型	高さ可変範囲が 20mm 以上のもの。
	高さ固定型	高さ可変範囲が 20mm 未満のもの。
寸 法	目地キャップ幅	25mm
	目地キャップ高さ	25mm 以上
	目地本体幅	目地キャップ幅の 80% 以上
	目地キャップの最低かぶり長さ (可変型のみ)	15mm 以上
	目地ベースの最低かぶり長さ (可変型のみ)	10mm 以上
	目地ベース幅 (可変型のみ)	目地本体幅 + 40mm 以上
機 能	保護コンクリートの上面から下面にまで達するよう高さの調節が可能なこと。	
外 観	目地製品について ・ 裂けた箇所、切断箇所、折れ曲がり及び破損箇所がないこと。 ・ 異常に粘着する部分がないこと。 ・ 固定時に仕上げに支障があるような異常な湾曲、起伏がないこと。	
	キャップ幅	- 2.0%
	本体幅	- 10.0%
	長さ	- 0.5%
性 能	目地本体	保護コンクリート層のムーブメントに対して所定の柔軟性等緩衝材としての性能を有しているもの。
	目地キャップ	所定の寸法安定性、耐荷重性、耐摩耗性、耐衝撃性及び保護コンクリートとの接着性を有し、付着層タイプにおいては水密性のある付着層を組み合わせたもの。
	ベ ー ス	防水層を傷つけない材料とし、目地本体が容易に固定できるもの。

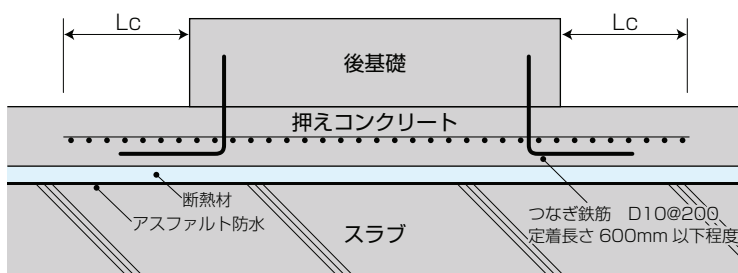
項 目	品 質 ・ 性 能		
	温度条件	付着層タイプ	アンカータイプ
圧縮性能	0~30% 圧縮での最大荷重 (N/cm)	160 以下	240 以下
	0~30% 圧縮での目視検査	0~30% 圧縮でキャップ表面に割れが生じないこと。	
伸び性能	30% 引き伸し状態での目視検査	-20±2℃ 20±2℃	伸び率 30% でキャップ付着層部とモルタル面が離脱しないこと。 伸び率 30% でキャップアンカー部分とモルタル面が離脱しないこと。
	摩耗性能 (mg)	20±2℃	1,000 以下
加熱収縮性能	加熱収縮率 (%)	70±2℃	縮み 0.5% 以内
	目視検査	いずれの試験片にも反り、歪み等著しい変形がないこと。	
耐衝撃性能	20±2℃	等級 PD-3 (PD-3→高さ 1.5m の衝撃で、いずれの試験片にもひび割れが生じないこと。)	
耐候性能	63±3℃	いずれの試験片にもひび割れが生じないこと。	
試験方法	一般社団法人 公共建築協会「成形伸縮目地材」の評価基準・試験方法による。		
備 用 語	<p>本評価に用いる用語は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書 (建築工事編)」9章2節による他、成形伸縮目地工業会「成形伸縮目地材規格」による。</p> <p>* 圧縮性能は、下図の圧縮性能試験体に示す 1cm 当たりの最大荷重値を規定し、N/cm と表現している。</p>  <p>幅 (W) 100mm 高さ (H) 80mm 長さ (L) 50mm 1cm 当たりの圧縮荷重 加力方向</p>		

# 防水保護層等の徹底解説



- ① 成形伸縮目地材
    - (1)形状及び寸法  
目地幅は25mm、本体は目地幅の80%以上、保護コンクリートの上面から下面にまで達するよう高さの調整が可能なもので、キャップ側面に付着層又はアンカー部を備えた製品とする。
    - (2)平場の屋根防水保護層には、伸縮調整目地を設ける。伸縮調整目地の割付けは、周辺の立上り部の仕上り面から600mm程度とし、中間部は縦横間隔3,000mm程度とする。また、伸縮調整目地は、排水溝を含めて、立上りの仕上り面に達するものとする。
  - ② 成形緩衝材は、アスファルトルーフィング類製造所の指定する製品とする。
  - ③ 保護コンクリート
    - (1)コンクリートの調合は、6章14節[無筋コンクリート]による。
    - (2)保護コンクリート内に敷設する溶接金網は、JIS G 3551 (溶接金網及び鉄筋格子)による鉄線径6mm、網目寸法100mmの製品とする。
    - (3)保護コンクリート中に溶接金網を敷き込む。溶接金網に重ねは、1節半以上、かつ、150mm以上とする。
    - (4)コンクリートの厚さは、特記による。特記がなければ、こて仕上げとする場合は、80mm以上とし、床タイル張り等の仕上げをする場合は、60mm以上とする。保護コンクリートは、所要の勾配に仕上げる。
  - ④ 屋上排水溝の適用は、特記による。
  - ⑤ 立上り部の保護は次により、適用は特記による。乾式保護材を使用する場合は、材料製造所の仕様による。
  - ⑥ 押え金物の材質及び形状寸法は、特記による。特記がなければ、アルミニウム製L-30×15×2.0(mm)程度とする。押え金物は、ステンレスビスを用いて、両端を押さえ、間隔450mm以下で留め付ける。
  - ⑦ 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材の材質及び厚さは、特記による。特記がなければ、材質は、JIS A 9521 (建築用断熱材) による押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA (スキン層付き)又はJIS A 9511 (発泡プラスチック保温材) によるA種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板3種b (スキンあり) とする。
  - ⑧ 絶縁用シートに使用する材料は、特記による。特記がなければ、屋根保護防水密着工法及び屋根保護防水絶縁工法の場合は、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上のものとし、屋根保護防水密着断熱工法及び屋根保護防水絶縁断熱工法の場合は、ポリプロピレン、ポリエチレン等を平織りしたフラットヤークロス (70g/㎡程度) とする。
  - ⑨ 入隅及び出隅は、通りがよく45°の面取りとする。
- ※「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」平成28年版より抜粋

## 防水層の上の保護コンクリートに設備機器を設ける場合の基本的注意事項



$L_c \leq 600\text{mm}$ 程度以下

\* $L_c$ =押えコンクリートの配筋(メッシュ筋程度)の範囲

「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」財団法人日本建築センターより抜粋

- ◆防水のある部分に設置する機器等は比較的軽微なものとする。(冷却塔・水槽・キュービクル・空調・ファン・冷房機の屋外機等)
- ◆アスファルト防水押えコンクリート仕様の場合、積載荷重は、 $30\text{kN}/\text{m}^2$ 以下とし、露出仕様の場合は $10\text{kN}/\text{m}^2$ 以下とする。
- ◆基礎の長手方向が屋上勾配に沿うような配置となるようにすることが望ましい。
- ◆成形伸縮目地は基礎に掛からないように設ける。

「建築設備施工要領図集」社団法人建築設備技術者協会より抜粋



## ドラ-ファクト工業株式会社

本社 〒196-0022 東京都昭島市中神町2丁目21番9号  
TEL042(545)6002 FAX042(545)6008

東日本事業部 〒196-0022 東京都昭島市中神町2丁目21番9号  
TEL042(545)6335 FAX042(545)6008

西日本事業部 〒564-0043 大阪府吹田市南吹田5丁目21番10号  
TEL06(6330)1512 FAX06(6330)1541

URL <http://www.draf.co.jp>

### カタログ上の注意点

- 商品改良のために製品仕様・外観は予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 印刷物と実物とは多少外観が異なることがありますので、あらかじめご了承ください。

### 免責事項

万一不具合等の問題が発生した場合には、下記の免責事項をふまえた上で対応させていただきます。

- 性能基準で想定している環境以外の条件が原因となって不具合が発生した場合。
- 本カタログに記載した注意事項が実施されなかったことが原因となって不具合が発生した場合。
- 本カタログに記載した事項に反した設計・施工が原因となって不具合が発生した場合。
- 施工業者による施工・取扱いが原因となって不具合が発生した場合。
- 明らかに、キャップ天端に集中及び偏心荷重が掛かったことが原因となって不具合が発生した場合。
- 入居者または第三者の故意、過失により不具合が発生した場合。
- 強酸、強アルカリ等の特殊な環境により不具合が発生した場合。
- 本製品の交差部または際部周辺のコンクリートひび割れに起因する不具合が発生した場合。
- コンクリート表層に伝い水による汚れの付着など美観上の変化が発生した場合。
- 施工当時実用化された技術では予測することが困難な現象により不具合が発生した場合。
- 初期の損傷または不具合の発見を長期間放置した事による拡大損傷。
- 瑕疵(かし)を発見後、速やかに届け出がなされなかった場合。